

平成27年度福岡市歯科口腔保健推進協議会 議事録

- 1 開催日時 平成28年2月16日(火) 15:00～16:30
- 2 開催場所 エルガーラホール 7階 多目的ホール
- 3 会議次第

- 1 開会
- 2 理事挨拶
- 3 委員紹介
- 4 口腔保健支援センター紹介
- 5 議事
 - ・会長・副会長の選出について
 - ・福岡市歯科口腔保健の現状について
- 6 情報提供
- 7 閉会

- 4 出席委員 19名(代理出席1名を含む)
欠席委員 1名
- 5 報道機関取材者及び傍聴者
報道機関：無 傍聴者：無
- 6 議事概要

事務局	<p>【開会】</p>
事務局	<p>【理事挨拶】</p> <p>歯や口の健康は、口から食べる喜びや話す楽しみを保つ上で重要であるとともに、近年、歯周病と生活習慣病との関連が明らかになって起きており、歯と口の健康づくりや食べる機能を維持することは、心身全体の健康を保つうえでも、ますます重要になってきている。</p> <p>そのような中、平成23年8月に、生涯にわたり歯と口の健康づくりを推進するため、「歯科口腔保健の推進に関する法律」が施行され、本市においても、歯科口腔保健事業を総合的に推進する体制づくりの整備が必要と考え、平成27年4月、今年度から保健福祉局に「口腔保健支援センター」を設置した。</p> <p>本市における歯と口の健康に関する現状や取組みにおいて、生活習慣病対策との連携や、在宅要介護高齢者や障がい者等への対応など、まだまだ課題が残っている。これらの課題を解決するには、従来ご協力いただいている歯科医療関係者の皆さまに加え、成人保健・産業保健関係や、介護・障がい福祉関係など、様々な関係者の皆様と相互に連携しながら取組みを進めることが必要と考え、本協議会を新たに設置した次第である。</p> <p>協議会設置にあたりましては、多くの皆様に御協力・ご助言いただきましたことに改めてお礼申し上げます。</p> <p>本日の協議会では、委員の皆様には今後の方向性なども含めて、さまざまな専門の立場からご忌憚のないご意見をいただきたいと考えている。</p> <p>また、各分野におかれましては口の健康づくりの取組みを広めていただくなど、今後ともご協力いただきますようお願い申し上げます。</p>
事務局	<p>【委員紹介】</p>
事務局	<p>【口腔保健支援センター紹介】 資料に沿って説明。</p>
事務局	<p>【議事：会長・副会長の選出について】</p>
委員	<p>歯科口腔保健法に基づいた協議会のため、歯科医師会が一番適任であると思う。</p>
委員	<p>歯科医師会と言われたが、福岡市民全体について、協議する場であると思うので、学識経験者の方が会長としてふさわしいと思う。</p> <p>九州大学の山下先生の方が適任であると思う。</p>
事務局	<p>委員の互選の結果、会長に九州大学の山下委員、副会長に福岡市歯科医師会の熊澤委員を選出。</p>
事務局	<p>【議事：福岡市歯科口腔保健の現状について】 資料に沿って説明。</p>
会長	<p>1歳半、3歳あるいは学童期では、むし歯は減ってきていて明確に口腔保健の改善がみられている。またその年代は検診体制が整っておりデータがとられているため、変化が明確に見える。その一方で、成人期や高齢者では、国の目標値が歯科疾患実態調査を基に出され</p>

	<p>ているが、この調査は、国民全員を調べているのではなく、標本抽出をして日本人の現状を把握するため調査した数値であるため、県や福岡市で、国との差を比較するためには、市や県レベルでも同様な調査をするべきだが、調べるためだけに莫大な予算がかかるため、現実的ではない。別の指標を使いながら成人での歯科保健をとらえ、向上を見ていけるかを考えるべきである。実態が見えてこない目標設定が出来ないため、色々な活動をして、その活動を評価出来ない。</p>
委員	<p>ある世代に歯科節目健診の個別通知を行ってくれと言ったが、今年は個別通知の対象が減らされており、受診率が下がっている。節目健診の個別通知を行えば結果は変わるはずだ。</p>
会長	<p>歯科節目健診について、良く知られていないのが現状である。</p> <p>福岡市の現状を表した資料の中に、「お口に関するアンケート調査」というものがある。事務局からの説明の中での「過去1年に歯科健診を受診した割合」の出典であるが、このアンケート調査で同様に、歯周疾患検診（歯科節目健診）を知っているかを尋ねたら、7%くらいの方しか知らなかった。また、大体4割の方が歯科医院に通われていて、残り6割の方は歯科医院にほとんど通われていない。4割の方は歯科医院に通われているので歯科医院から指導や健診の周知をしていただければと思うのだが、歯科医院に通われている4割の方についても歯科節目健診を7%しか知らない。残りの6割の方も7%しか知らない結果から、歯科医院に通っているが、歯科節目健診の存在を知らない方が多いことが分かる。現在、歯科医院に通っているのなら、健診については知らなくてもいいだろうという意見もあると思うが、市民に広く周知していくなかで、歯科医院からも、健診等の存在や活動を広めてもらえたら、患者さんを通じて家族やお友達の方等に広まっていくのではないかとと思うのだが、そのような活動は、現在行われているのか。</p>
副会長	<p>健康増進法では40歳から40、50、60、70の歯周疾患検診が決められているが、福岡市では独自に35歳も追加して実施しているため、18歳から35歳までの17年間で健診を行っていない空白の期間となっている。これを改善して欲しいというのが歯科医師会の1つの要望である。また、妊婦歯科健診の平成26年度の実績が27%と、30%に満たない受診率であり、また、歯科節目健診は、全年齢の受診者の2.1%しか受診をされていないため、何とか受診率を上げていきたいと思っている。先ほど意見があったように、平成24年度からダイレクトメールの送付を、24年度は40歳のみ、25年度と26年度は35歳と40歳のみ、27年度は35歳と40歳の約半分に行ったら、ダイレクトメールの発送前は、400人、400人、500人だった受診者数が、1100人、1400人、2087名と実績があがってきた。効果が出ていると思っているので、歯科医師会からの要望としてダイレクトメールによる受診率の向上をしていただきたいと思っているので、よろしくお願ひしたい。</p>
会長	<p>周知については個別のダイレクトメールもあるが、他に、歯科に携わっておられない方から方法論などがあれば寄せてもらえないか。福岡市の歯科節目健診では、35歳も実施しているが、一般的には40、50、60、70歳の歯周疾患検診として行っている。これは市が補助を行うため、4000円程度の健診を市民の方は700円の実費で受けることができるというもので、他の集団健診とは異なり、歯科節目健診に関しては歯科医院にて受診をする</p>

	<p>。病院で実施しているため、行ったら削られるのではないかというハードルを感じられるのかもしれない。患者側として感じられることや、取組みについてのご意見もいただけないか。また、歯周病は糖尿病とよく比べられるのだが、どちらも症状がほとんど出ない。気付いた時には歯ぐきの中の見えない部分で、歯をサポートしている歯槽骨という骨の部分がほとんどなくなっており、抜歯をされるというケースが多いが、一般の患者さんからすると、こんなに歯や歯ぐきが残っているのに抜くのかと思われる。そんな事にならないためにも、現状を確認する必要がある。むし歯は気づきやすいが、歯周病は、気づきにくい。自治体が健診を企画されているが、改善した受診率でも2%，以前は1%程度の方しか、健診の恩恵を受けられない、あるいは関心をもたれないという状況が続いている。これは、福岡市だけではない。また一方で、1歳半や3歳児健診では90%以上の受診率、すなわち、ほぼ全員の方が受診をされているのに比べると非常に対照的な結果となっている。子供に関しては非常に関心を持たれるのに、自分の歯は放っておかれるという現状がある。歯が抜ける原因や、歯は維持できることを、理解していただきたいと思っている。</p> <p>8020についても説明があったが、8020を半分くらいの方しかご存知ない。私は8020自身については、疑問に思っている。理由として、健康な成人では、永久歯が口のなかに28本ある。8020というと8本は抜けて良いという感覚になりがちである。歯が1本抜けたら、まだ7本あるというような発想になりかねない。今年の九州口腔衛生学会では、8020から8028へのパラダイムシフトをテーマとして謳っている。これは、高齢者の歯を少しずつ増やしていこうというのではなく、抜ける事への危機感を持ち、1本でも抜けた場合には、なぜ抜けたのかを考え、抜けないためには歯科医院に通うことが大切であるということを定着してほしいと思っている。これまでの歯科医院への通院パターンは痛くなったから、歯が動き出したからという理由や歯が抜けたから入れ歯を入れるため等、かなり受身的な受診パターンであるが、健康な時から歯科医院に通うことで歯を失わなくてすむということをご理解いただくためのきっかけが歯周疾患検診になればと考える。国が規程している歯周疾患検診は、対象年齢が40歳からだが、それでは遅いため、福岡市では35歳から始めている。すばらしい企画のはずだが、市民・国民レベルで浸透していないのが実情なため、委員の方々からも伝えていただきたい。また、歯科の立場からは見えないアイディア等があれば、ご意見お知恵をいただきたい。</p>
委員	<p>歯科節目健診ダイレクトメールは、その目的のためだけに、送られているのか。</p>
事務局	<p>昨年度までは、歯科節目健診のみで送っていた。今年は工夫をさせていただき、がん検診の一部と併せて送付した。</p>
委員	<p>そのように工夫されることで、経費を削減しながら、削減分で出来るだけ受診料を、700円を500円、500円を400円、できたらタダにもっていかれると、受診率が全然違うと思う。1歳半や3歳の健診は、ほぼ100%の受診率であるが、受診料が無料であるためと思う。金額を少しでも安くできれば、また、40、50、60、70の一部でも、一回当たりの自己負担を無料にされると非常に増えると思う。</p>
会長	<p>受診者負担については、以前話をしたときには、がん検診にも自己負担があるのに、歯科だけ無料には出来ないという話があったと記憶しているが。</p>

事務局	<p>財政的な問題に関しましては、なかなか厳しい状況があるため、いますぐに、それが出来るというようなことは述べられない。</p>
会長	<p>勝手な事を申し上げるとしたら、仮に歯科医師会側が自己負担分を負担し、受診者からの自己負担を無くしてはどうかと提案したら、出来ないという話が以前にあったように記憶している。がん検診も自己負担金をいただいているので、歯科だけ負担なしにはできないという事を聞いたが、がん検診の自己負担金の金額を教えてください。</p>
委員	<p>大腸がん検診については基本的に500円、前立腺検診については1100円という価格になっている。大腸がんは、500円分が一部の年齢では無料で受けられるようになっている。</p>
会長	<p>受診者側の立場、保健行動をどう変えられるかを色々な方にお聞きしないと、健診者側からだけでは、見えてこない部分も多い。幅広い視点から色々なご意見をいただいたほうがいいのではと思う。</p>
副会長	<p>妊婦歯科健診について、以前は500円の自己負担があったが、24年度から500円の自己負担を無くして無料になったため、受診率が10%くらい増えている。また、あまり知られていないため一応説明させていただくが、この健診事業に来られた患者さんは、同日には治療が出来ないが、次回から治療になった場合、治療初日は再診料を算定するため、患者さんにとっては、治療を始めても安くなる制度である。</p>
会長	<p>情報伝達の方法について、何を使って、どうしたら市民に向けて周知をしやすいかということをご検討いただきたい。とくに今、インターネットを利用した情報提供は、ほとんど無料で行えるため、活用方法を考えるべきだと思う。</p> <p>以前、市がアドレスを集めて、一斉送信するというようなシステムを何か検討されていると聞いたことがあるのだが、現在は取り組まれているのか、状況を教えてください。</p>
事務局	<p>高齢者等の施設については、担当の課で、そのような情報の伝達をしているので、研修会の案内等の機会に利用させていただいている。</p>
委員	<p>健診の問題にしてみても、なかなか進まないことがあると思う。去年、行政か歯科医師会から、8020の啓発についての黄色い冊子を、1薬局に10部ずつくらい配布された。もう少し底辺を広げるための取組みを考えていきたい。医科では、認知症サポーターの養成が、かなり大きく広がっているところだが、資料にある「お口の健康サポーター養成教室」について、資料によると、食生活改善推進員の方のみ対象のようだが、一般の方へは実施しているのか。</p>
事務局	<p>現在は、食生活改善推進員の皆さまだけを対象に行っているところであるが、やり方等は色々あるかと思う。同様の事業を実施している他の自治体において、ボランティアや健康づくりの事を一から伝えるとなると、結構な時間数を要して養成をされているということだった</p>

	<p>ため、今回は、既にそのような知識を持っておられ、活動についても既に地域では定着している推進員の皆様に対して養成を行い、年間活動も多くしていただいているので、今までは、食べる事や栄養バランスという事を地域でお伝えいただいていたところに、一言二言、お食事前にマッサージすること等の情報を加えていただき、伝えていただく機会を増やしていくこと、また推進員の皆さま自身も実践することを目指して行っているところである。</p>
委員	<p>唾液や嚥下の話も大切な話だと思う。良ければ当団体にも来ていただき、サポーターを養成し、うまくいけば、健診の受診勧奨の一つのカテゴリーのなかに入れていただければ良いかと思う。会の年長者は唾液の事を理解している者が多いが、若い人になると、唾液や嚥下についての知識は、なかなか馴染まず良く知らない人も多い。そのカテゴリーの中に入れていただければ、健診に繋がる場所があるかと思う。</p>
会長	<p>服薬と唾液が出にくくなる事は非常に関連があるので、その周知のためにも、薬の飲み方と唾液の出かたという説明が出来ればと思う。</p>
事務局	<p>節目健診の受診率は2～3%のため、データとして使いづらい状態である。一方で、歯科診療所で4割の方が定期的に健診を受けている状況であるので、両方をお互いあわせていけば両方うまくいくのではないかと思う。あるいは、がん検診や、特定健診にしても自慢できるような受診率ではないため、総合的に、薬局等、色々な所に御協力いただき、広報に努め、受診率を上げたいと思っているので、ご協力をお願いしたい。</p>
委員	<p>高齢期における取組みについて、訪問型の介護予防事業の昨年度の実施率と、どのような形で実施されているのか尋ねたい。</p> <p>高齢者は大変多くなってきている。訪問指導について、医科と違い歯科は栄養指導料が取れなかったが、28年度から取れるようになる。これまで医科が介入した部分は改善しても、歯が無いことには食べられない。結局、歯科からの介入が出来ないことが問題になってくる。昨年、本会としては市外から高齢者についての委託事業を受けたが、そこでは在宅支援や教室等を多く実施していた。予防や治療も含めて医科歯科連携の必要性が出てくるのではと思っている。誤嚥性肺炎を予防するためにも、口腔ケアが十分に出来ていないと、医療費増大になる。こういった取組みを正確に行うことで、全体の医療費の削減へ繋がると思う。</p>
事務局	<p>資料に載っているデータは南区のものであり、26年度の全市では、実人数としては18人だった。これは、介護予防事業の通えない方に対して居宅に訪問して行うが、18人全員に対して口腔関係についても実施したかというのは、詳細なデータは持ち合わせていない。</p>
委員	<p>福岡市の歯科医院で在宅診療をしている方は非常に少ないと聞いている。歯科医師会の方で協力いただき、在宅診療をしている歯科医院を増やしてほしい。</p>
会長	<p>高齢者の話が出ているが、資料中に、福岡市高齢者実態調査というのがある。これによると8020達成者が福岡市では、平成25年で40.6%、平成22年で41.2%の方が8020を達成したとあるが、これは、本人の申告による結果を基にした数値である。久山で調査を行うと、毎年健診を受けられていることもあり、大体の項目で、かなり良い状態であ</p>

	<p>るが、その久山でも、8020達成率は32%くらいである。歯科疾患実態調査だと20%を少し超える程度の結果なので、福岡市の結果はかなり高いと思う。対象者として、口腔の状態のいい方を調べているのかもしれないが、自分で何本歯があるかを的確に把握するのは、特に高齢者の方においては難しい。歯の数だけではなく、口腔に対する満足度、QOLを含んだ質問項目を加えていただけたら、今後の高齢者の口腔状態の評価をしやすと思う。</p>
事務局	<p>この調査は25年度に実施した高齢者の一般調査であり、25年の10月の時点で福岡市に在住の60歳以上の方から無作為抽出でアンケートを送付し回答いただいたものである。なお、5000人の方を対象にアンケートを送付している。</p>
委員	<p>回収率はどのくらいか。</p>
事務局	<p>回収率は、59.7%であった。</p>
会長	<p>非常に貴重なデータだと思う。もう少し口腔に関するデータを増やしていただければと思う。</p>
事務局	<p>実態調査は、次回は28年度に実施予定のため、その時にまた検討させていただきたい。</p>
会長	<p>また成人の歯の状態については、受診率が1~2%程度の健診データが出典になっている。これをもって、福岡市民の現状を表現するのは非常に難しいと思う。そういった意味では、別の代替的な指標はないのかと思うが、「お口に関する市民アンケート」のなかで調査を行ったデータをベースに今後評価ができるようにし、今から行っていく色々な事業に対しての成果の表れとして、データがどう変化していくのかで評価ができるようなシステムを考えていただきたいと思う。アンケート調査に対する予算がかかると思うが、前向きに検討していただきたい。</p>
委員	<p>昨年から特に多職種連携という事で、地域のネットワークづくりをケアマネージャーとしては中心にさせていただいている。口腔のケアの重要性が高齢者の方を中心に謳われていて、多職種連携の中でも、色々なネットワークの中でケアを進めている。今日の話の中で、初めて情報を知った部分も多かった。協会として福岡市の7区で研修体系を持っているので、先生方と併せて色々な研修を組み込んでいくなかでの情報提供や、居宅を訪問する際に受診の提案を行うことなどが考えられる。また、お口のサポーターに私たちも入りながら色々指導をさせていただくことでネットワークづくりに参加できるのではないかと思う。</p>
会長	<p>福岡市における歯科口腔保健の課題といったところは共有できたのではないかと思う。本日の協議会をきっかけに、各関係者が連携を強くし、福岡市民の口腔保健の向上につながる事を期待する。</p>
事務局	<p>本日は、今後の参考となるご意見を多くいただいた。これからもよろしくお願いしたい。</p>
事務局	<p>【閉会】</p>